

ポーラ化成工業の白斑研究助成金制度 2024年度募集の採択者が決定 白斑治療法の発展を目指して

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社(本社:神奈川県横浜市、社長:片桐崇行)が日本白斑学会の全面的なご協力のもと実施している「2024年度 ポーラ化成工業 白斑研究助成金」の採択者が決定しましたので、お知らせします。

白斑治療への貢献を目的に2021年に設立された「ポーラ化成工業 白斑研究助成金」制度

皮膚の白斑の病態はメラノサイトに対する自己免疫機序や自然免疫、酸化ストレスなどの関与が推測されていますが、それだけでは説明がつかないことが多く、未解明の部分が多く残っています。また現在の保険診療では治療が難しい例もあり、より良い治療が求められています。最新の解析技術を用い、新規治療法につながる研究を創り出していくことが最重要課題であり、本助成制度がその発展に少しでも貢献できればと考えています。

2021年に開始した本研究助成金では、2023年は4つの研究テーマに対して助成を行いました。また、各研究テーマについての研究成果報告会が第6回日本白斑学会学術大会(2024年9月22~23日)にて開催され、多くの研究者が活発に意見交換を行いました。4回目となる2024年度の公募においても、白斑発症メカニズムや治療法、白斑と関連する病態解明など多岐にわたる研究テーマの応募が多数ありました。

2024年度採択者一覧

日本白斑学会理事で組織する選考委員会において厳正に審査した結果、下記の方々が採択されました(50音順)。

助成者名	所属機関名・職名	研究テーマ
青山 和弘	千葉大学医学研究院皮膚科学 助教	白斑内のメラノサイト抗原特異的T細胞を選択的に抑制するための新規治療標的の探索
木下 真直	山梨大学大学院 総合研究部医学域 皮膚科学講座 学部内講師	表皮ユニットにおける尋常性白斑の包括的な病態解析
松尾 真帆	岐阜大学医学部附属病院 助教	白斑と円形脱毛症におけるGPNMBの関与についての研究

本助成制度に関する詳細はhttps://www.jsvitiligo.jp/news/data/pola01_2024.pdfをご参照ください。

日本白斑学会(JSV)

日本白斑学会は、皮膚の白斑の病態解明と新規治療法の開発、研究者の情報共有、若手研究者の育成、白斑に関する諸問題への取り組み、国内・海外への情報発信、ならびに国際共同研究に対する日本の窓口となることを目的として2018年に設立された学会です。

<日本白斑学会ホームページ> <https://www.jsvitiligo.jp/>



日本白斑学会事務局長 鈴木民夫教授(山形大学皮膚科) のコメント

選考は6名の評価者が全ての応募申請を独自に評価し、その集計結果をもとに行いました。

採択課題はいずれも高得点を獲得した課題であり、その結果発表を次回の白斑学会で聴くのが今からとても楽しみです。